

道特P（十勝大会）に参加して

教頭 柏木 拓也

10月14日（土）～15日（日）に帯広市にて北海道特別支援教育振興大会・北海道特別支援教育関係PTA研究大会合同大会が開催され、本校から佐々木PTA会長、宮崎校長、安達主幹教諭、教頭が参加いたしました。本大会は、大会主題を「障害児・者の豊かな学びと社会参加を求めて～豊かに学び生きがいのある生活を実現する支援の在り方～」として、卒業生からの体験発表、分科会、公演などで構成されていました。

「体験発表」は盲学校、聾学校など特別支援学校を卒業され、現在、就労していたり家庭に入られていたりする方から、在学中の話や就労後のエピソードなどをお話いただきました。岩高養を卒業された方からは、「支えてもらった分、今度は自分が誰かの役に立ちたい、支えてもらった分恩返しがしたい」という強い思いから、在学中の生徒会活動、専門学校において多くの資格を取得、元気に働くことが、周囲の方への恩返しになるとの話がありました。盲学校を卒業された方からは、鍼灸、マッサージ師になり、できないことがあれば自分から人にお願いすること、お礼をしっかりと伝えること、自分の得意分野を見つけ、「自分にしかできないこと」を見つけることの大切さが伝えられました。

2日目の講演では、「芽室町の発達支援システムから就労支援へ～すべての子どもを自立させる町づくり～」として、芽室町職員と就労継続支援A型事業所の方からお話がありました。「誰もが当たり前前に働いて生きていける町づくり」をスローガンに、障害の重い方、引きこもりになっていた方など、どの方も会社の中に役割を持ち、余暇を自分で得た給料で生き生きと充実させている様子の他、芽室町の早期発見早期支援、芽室町個別支援計画などの「すべての子どもを自立させる」という取組が紹介されました。

本校では、「学びの履歴」「将来の姿」などの言葉が使われ、保護者懇談や研究推進がされています。今、目の前にいる子どもたちの人生の中で教育が携わる期間はほんのわずかかもしれませんが、だからこそ、私たちは、これまで子どもたちが経験や学んできたことを踏まえた教育、これから子どもたちが生きがいのある生活を送るための教育、安心して暮らすための連携を大切にすることが求められています。12月11日(月)には、これまで実施した授業研究（小学部、高等部）の成果を踏まえ、作業学習を題材に中学部の校内授業研究を行います。小学部で取り組んだお手伝い活動や係活動と、卒業後を見据えた高等部の作業学習をつなぐ中学部の「育てたい力」「学びの連続性」について共有を深めるとともに、今、この授業が将来どんな力となるのか、生活にどのように活かされるのかを追求したいと思います。

次年度の道特Pは、後志大会となっています。距離が近いことや子どもたちの今と将来を考える大変充実した時間となります。是非、皆さんで参加しましょう。